

【第41回南紀短歌大会 入選者リスト】

賞	出詠者					
	NO	市区町村	氏名	ふりがな	歌	
特別賞	知事賞	16	白浜町	木下 正博	きのしたまさひろ	ほおかむり夏もしていし祖父なりき手向けの水に湯気たつ墓石
	市長賞	62	和歌山市	高野 仁美	たかの ひとみ	さくらんぼ、りんご、すいかと産科医はあなたのことをいつも喻えた
	教育委員会賞	81	岩出市	赤井 順子	あかいよりこ	エプロンをかける程でもなき家事の少しさみしき秋のひとり居
	文化協会賞	11	白浜町	木下 のりみ	きのしたのりみ	炊飯器に花柄のある時代あり厨は女の居場所なりしころ
小島 ゆかり	特選	16	白浜町	木下 正博	きのしたまさひろ	ほおかむり夏もしていし祖父なりき手向けの水に湯気たつ墓石
		82	阪南市	北川 民子	きたがわたまこ	葛城の山頂の月ついて来る稲刈り終えて酒宴の道へ
		83	田辺市	廣瀬 佐和子	ひろせ さわこ	針を繰る手はかはらねど会ふたびにマトリョーシカのやうなる母は
	入選	6	日高町	鍵本 和代	かぎもとかずよ	台風の逸れて稲刈りさあ始む帽子を重ね空調服着る
		11	白浜町	木下 のりみ	きのしたのりみ	炊飯器に花柄のある時代あり厨は女の居場所なりしころ
		37	上富田町	石井 和子	いしいかずこ	億年の中の今生ひとり居にみちのくの栗給ふ人あり
		62	和歌山市	高野 仁美	たかの ひとみ	さくらんぼ、りんご、すいかと産科医はあなたのことをいつも喻えた
		64	田辺市	本田 花枝	ほんだ はなえ	雨の日の子が留守番をするやうな彼の世の母を待つ日がありぬ
73	田辺市	中村 優子	なかむらゆうこ	手の甲をあわせ左右にひき離すお久しぶりと目でみることば		
77	田辺市	下村 由美子	しもむらゆみこ	待ちかねし便りのやうにひとすぢの涼風は来て前髪そよぐ		
林 和清	特選	11	白浜町	木下 のりみ	きのしたのりみ	炊飯器に花柄のある時代あり厨は女の居場所なりしころ
		38	すさみ町	池田 美代子	いけだ みよこ	ひとり居の影絵であそぶ狼は指に宿りし子との思い出
		62	和歌山市	高野 仁美	たかの ひとみ	さくらんぼ、りんご、すいかと産科医はあなたのことをいつも喻えた
	入選	1	上富田町	田浦 陽子	たうら ようこ	ときおりは冷たくした日もあったのに感謝ばかり母の日記は
		19	美浜町	浜田 佳世子	はまだ かよこ	一夜かけ三和土に残るなめくじの努力の跡が銀に光れり
		36	日高町	鈴木 幸代	すずき さちよ	じんわりと力の沸いてくるやうな姉との電話切りしその後
		54	和歌山市	榎本 紀子	えのもと のりこ	盆迎へそちらはいかがと呟けばクルルッポーと雉鳩なきぬ
		61	田辺市	打越 眞知子	うちこしまちこ	爽籟が路地走りきて雨戸打つアゴ電強盗知りたる夜半を
81	岩出市	赤井 順子	あかいよりこ	エプロンをかける程でもなき家事の少しさみしき秋のひとり居		
97	新宮市	小野 小乃々	おののこのの	雨あがりに金木犀は香りたつ足を引き摺るから友と知る		
井谷 まさみち	特選	7	紀の川市	奥澤 典子	おくざわ のりこ	読み終えし新聞の角合わす夫量めば良いの我と生きたり
		40	田辺市	杉若 喜代香	すぎわかきよか	満面の笑みに一步を踏み初むる嬰兒月に降り立つごとく
		81	岩出市	赤井 順子	あかいよりこ	エプロンをかける程でもなき家事の少しさみしき秋のひとり居
	入選	8	田辺市	中山 ゆみこ	なかやまゆみこ	ひとり居の「いただきます」に「ごちそうさま」声なき夫の遺影が笑ふ
		16	白浜町	木下 正博	きのしたまさひろ	ほおかむり夏もしていし祖父なりき手向けの水に湯気たつ墓石
		19	美浜町	浜田 佳世子	はまだ かよこ	一夜かけ三和土に残るなめくじの努力の跡が銀に光れり
		24	白浜町	庵戸 眞知子	いおど まちこ	緑濃き青田の中に白鷺の無防備に立つ平和な日本
		57	御坊市	安田 眞由美	やすだ まゆみ	「父さんもこんな気持ちで見てたかな」つぶやく息子幟差す孫
67	印南町	久保井 千代	くばい ちよ	見ぬふりも限界なりと覚悟決め伸び放題の草と向き合ふ		
93	和歌山市	松田 容典	まつだ よしのり	舌鼓打ちし後埋めし桃の種芽生えて今は吾の背を越す		
連 盟 賞	入選	19	美浜町	浜田 佳世子	はまだ かよこ	一夜かけ三和土に残るなめくじの努力の跡が銀に光れり
		1	上富田町	田浦 陽子	たうら ようこ	ときおりは冷たくした日もあったのに感謝ばかり母の日記は
		45	和歌山市	西村 良子	にしむらよしこ	聞かされし人の噂も醜さも包みて燃ゆる大きき夕やけ
		24	白浜町	庵戸 眞知子	いおど まちこ	緑濃き青田の中に白鷺の無防備に立つ平和な日本
		34	印南町	山西 啓子	やまにしけいこ	風蘭は朝露纏いひそやかに樹上で踊る白き妖精
		64	田辺市	本田 花枝	ほんだ はなえ	雨の日の子が留守番をするやうな彼の世の母を待つ日がありぬ
73	田辺市	中村 優子	なかむらゆうこ	手の甲をあわせ左右にひき離すお久しぶりと目でみることば		